



同友しずおか

題字：遠藤 在氏 榛原支部

私の逸品

浜松同友三銃士が生んだグッズ製作のビジネスモデル
(株)ユーモア・(株)エーグッド・井村印刷
詳細はWEBで！ (浜松支部)
静岡同友会 検索



中小企業憲章・振興基本条例学習会

特集

「条例で地域、中小企業、そして中小企業振興への考え方が変わる」

慶應義塾大学経済学部教授 植田 浩史氏

会員訪問記

大池 盛一郎氏 (有)カーライフ静岡・志太支部
九川 治喜氏 丸山工業(株)・富士宮支部

シリーズ

委員会・部会通信 遠藤 正人氏 (株)富士トレーディング・政策委員会委員長

その他 主な内容

九州・沖縄ブロック役員研修会、富士宮・富士合同例会、支部だより、新入会員紹介、友達の輪、女性経営者全国交流会感想

平成28年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

講演 「中小企業振興基本条例で、地域、中小企業、そして中小企業振興への考え方が変わる ～条例・調査・振興会議の3つの定石で捉える産業活性～」

講師 植田浩史氏（慶應義塾大学経済学部教授）

6月11日（土） 静岡市産学交流センター ペガサート6F 参加62名



6月11日（土）に5回目となる条例学習会を開催。県議会議員、静岡県をはじめ、静岡市、沼津市の行政担当、中小企業団体中央会や藤枝市、牧之原市の商工関係団体、また大学や関係機関から12名を含む65名が集いました。講師には植田浩史氏（慶應義塾大学経済学部教授）をお招きし、「中小企業振興基本条例で、地域、中小企業、そして中小企業振興への考え方が変わる～条例・調査・振興会議の3つの定石で捉える産業活性～」をテーマに講演頂きました。まず中小企業振興基本条例とは、地域（自治体や関連機関）が中小企業の安定的な経営と事業発展のための支援を行う宣言であるだけでなく、中小企業自らも、環境変化に耐え、事業発展させるための自助努力と自己研鑽を行うことを宣言するものであると説明。そして21世紀は、地域における中小企業振興が、地域経済、地域社会、地域生活の活性化に不可欠であると強

調されました。また、大阪府八尾市、北海道帯広市、愛媛県東温市、松山市、東京都新宿区の条例制定後の活きた取組みを踏まえ、地域産業政策を創造する振興会議の在り方として、課題意識を高める場、生きた活動展開と議論ができる協働の場、支援や連携で成功事例を積み重ねる場の3点が重要と語りました。参加者からも「条例は制定されても活かなければ意味はない。条例と共に、現状把握をする調査活動、そして振興会議。これら3つを定石として捉え、中小企業・自治体・地域全体が中小企業振興に覚悟を決めることが重要」「条例は中小企業と行政や地域を結ぶ架け橋。条例を運用していくことが、地域づくり、企業づくり、人づくりに大切なこと。企業の経営指針と同じくPDCAサイクルで行うこと」などの意見が会内外の参加者から挙がりました。



6月7日に開催された憲章キックオフ集会には17名の国会議員が参加

<参加者感想>

昨年3月に神奈川で開催された中小企業問題全国研究会で、植田先生の分科会に参加して以来の先生の勉強会でした。一昨年より、地元藤枝市の商工会議所地域振興委員会にて中小企業振興基本条例の策定に向けたプロジェクトを立ち上げ、委員会メンバーとともに他地域の条例についての勉強会や東京墨田区の視察を実施しました。同時に市の推進する中小企業育成の環境整備の仕組みであるEG（エコノミックガーデニング）の推進と絡めながら、市の産業政策部門の担当者とも協議を重ね、少しずつ条例（案）の策定に向けた準備をしてきました。

この学習会の直後の14日には、商工会議所総務委員会、及び会議所会員市議会議員への条例（案）説明の場が設けられ、条例策定を要望として市長あてに提出する道筋がはっきり見えてきました。今回の研修では、改めて理念条例の必要性、そして生きた条例にするためのポイントが確認でき、とても良い予習になりました。近隣の焼津や島田にも、同様の機運が出てきているようで、同友会支部活動を通じ、志太地域全体に連鎖していく事を目標に、あと一押し頑張っていきます。

松葉 秀介氏（松葉倉庫㈱・志太支部）

南の地で学ぶ！ 同友会役員とは？同友会運動の総合実践とは？

5月26～27日に佐賀市で開催された本研修会に九州・沖縄から、153名が参加。静岡同友会事務局は研修として参加し、秋山和孝氏・河合浩史氏の副代表理事が帯同しました。

1日目は「支部長・支部役員の役割」を中村高明中同協副会長が問題提起、その後、事例報告として長崎から企業づくり、福岡から地域づくり、沖縄から同友会づくりについて報告がありました。2日目は、和田寿博氏（愛媛大学教授）、米田順哉氏（NPO法人家族支援フォーラム 理事長）、鎌田哲雄氏（愛媛同友会専務理事）から「条例づくりで地域の未来を切り拓く～教育と企業づくりを軸にして」のパネルディスカッションが行われました。2日間の研修報告・感想を紹介します。



良い会社、良い経営者と同様に、良い経営環境づくりにも努めなければいけないと学んだ、2日目の学習会。愛媛同友会の鎌田氏、米田氏、愛媛大学の和田氏による報告を含め、150分に亘る意義深いものでした。お陰でなかなか腑に落ちない条例制定運動の糸口が掴めたような気がします。

条例は同友会運動の理論的実践で最高の到達点であり、中小企業問題は教育問題、とのこと。つまり幼少期から「出世＝官僚・大企業就職」と刷り込まれる現在の教育を正し、公平な職業観や勤労観を養っていく必要があるとしているのです。愛媛の松山市や東温市では同友会が市による会議体の中心となって、学校の授業にも使用されるテキストの作成をはじめ教育機関とも深い関わりを持ち、子どもたちにどう生きるかを問い、誇りを持って中小企業の魅力を伝える努力をしています。一方で条例運動を通じ、地域の人たちからは同友会運動の総合実践をしている企業かどうかの評価の対象ともなるわけです。条例制定は地域の未来を切り拓くために不可欠であると同時に、私たち中小企業には、地域にいろいろな意味で還元できる企業であることが求められるのです。人間を成長・発達させるのは何よりも正しい企業経営によるものということ、人を生かす経営の総合実践による自社の発展が同友会運動の原点であるという認識を一層深めた今回の研修でした。

秋山 和孝氏（㈱アイソー・沼津支部）



若干の旅行気分を持ちながらの役員研修会でしたが、初日は役員の役割、2日目は松山市の条例づくり。全国大会並みのスケジュールでしっかりと学んで参りました。

役員になって支部活動に出掛けると仕事をする

時間が減るので、終わってから会社に戻り仕事をする。これでは役員になっている意义がありません。「自分自身を厳しく時間管理し、社員さんに権限移譲を進めて各部門の責任者を育成した組織経営をすることが役員の役割であり意義である」中同協の中村副会長からのこの言葉は私の胸に突き刺さりました。私は社長である自分自身が会社の看板であり、社員よりも前に出る事が会社の発展であると考えながら経営をして10年が過ぎました。私は同友会の役員になっているにも拘らず、社員への権限移譲をせず彼らの成長のチャンスを経営者自身が奪っていることを自分自身でも反省していました。権限移譲は社員共育です。まず相手を認めてから指導に入る。そして送り出す。合言葉は「イエス・バット・ファイト！」私に足りなかったファイトを意識した組織経営をしています。

河合 浩史氏（板橋工機㈱・沼津支部）



ブロック役員・報告者を囲んで

2日間の研修を通じ、同友会役員の役割をはじめ、同友会運動と条例運動について、また、他県の会員がどのような形で同友会に関わっているかを学ぶことができました。活動のやり方はそれぞれの県で多少の違いはありましたが、人を生かす経営という根幹は同じであると改めて感じました。鎌田氏の「物事への見識を持つ」という言葉を意識し、会員の皆さんと一緒に会の運動を創っていきたく強く思いました。

白畑 佑悟氏（事務局）

「足もとに笑顔を届ける会社 ～奇跡を起こしたピンクの靴～」

報告者：十河 孝男氏（徳武産業株式会社 代表取締役会長・香川同友会）

6月2日（木） 富士宮駅前交流センター「きらら」 参加88名



十河 孝男氏

報告者は、十河 孝男氏（徳武産業株式会社 代表取締役会長・香川同友会）。銀行員等を経て、義父である先代社長の急逝により、37歳で

徳武産業の社長に就任。大手得意先の協力工場としてバレシューズ等を製造。しかし、得意先の仕事が数年後に海外移管によりゼロになるなどの経営危機に直面します。そんな時、友人の介護施設長より高齢者が転びにくいシューズの開発を依頼されました。2年間におよぶ研究開発の末、明るく軽く安定安価な高齢者

用ケアシューズ「あゆみ」が誕生します。左右サイズ違い販売、片方のみでも半額で販売するなど、完全に常識を覆しています。経営判断に迷ったら損得ではなく善悪で判断、天に恥じることはしないという十河氏。社員全員で作成した膨大なボリュームと内容の経営計画書にも驚かされます。製品の入った箱には社員の手書きのまごころ葉書が入っており、回答をいただいたアンケートも本当に大切に管理されています。まったく歩くことの出来ないお婆さんにピンクの靴「あゆみ」が語りかけます、「歩こうよ！」と。そして数カ月後、本当にそのお婆さんは歩くことが出来たのです。このような奇跡を起こし続けている徳武産業株式会社には全国から感謝の手紙が絶えません。そして、例会最後に紹介されたDVDによる礼状の内容に、当日の参加者は涙を抑えきれないのです。

九川 治喜氏（丸山工業株式会社・富士宮支部）

参加者感想

ケアシューズ業界のトップシェアを担う徳武産業株式会社。講話の中で、高齢者は足腰が弱っているから、歩くときに足先が十分に上がらず平地でもつまずいてしまう、と聞いた瞬間に、昔、いたわりがなかった自分を責め、高齢者用ケアシューズが頭と心に入りました。

命がけの事業継承、下請け企業からの変遷。老人ホームを経営する友人からの相談を機に調べ始めて高齢者の悩みの深刻さに驚きます。約500人の高齢者の足を調べ2年後「あゆみ」シューズの開発に至り、高齢者の願いをかなえています。百科事典のような経営指針書をもとに、約60人の社員とは常に意見交換の場を設けている、チームごとに日々の早朝ミーティングで問題点、成果をあげて、落后するチームを減らしていく、「私の考えを理解し、会社に愛着を持ってくれる社員がいるからこそ、顧客に喜ばれる物を提供できると思う」という報告でした。

私はこの原稿を書きながら、うちは企業間取引だから、お客は企業だから違うと思った自分に、「何が違うだよ」と自問自答。顧客企業、社員、地域としっかり向き合っているのか、自分は「変わった」のか。ごまかしている自分を気が付かせていただいた講話でした。

渡辺 直俊氏（フジゲン株式会社・富士支部）



中小企業にとって下請けからの脱却は並大抵の努力では出来ないと私は思っています。研究・開発する余裕や、それを継続する余裕と意志がないからです。徳武産業株式会社は会社が非常に厳しい局面を迎える中、自社の培ってきた技術を応用し、「高齢者の困り事」をきっかけに徹底的に数値化し改善してきました。それも、お客様に寄り添い何度も何度も時間をかけて。普通の人なら諦めてしまっているだろう、と思えるくらいの発表者の熱い言葉が私の心に突き刺さり、私なりの努力では甘過ぎると気付かされました。お客様をどのように満足させ、満足以上のものを得られるかは、商品自体もさることながら従業員次第で変わるということも、同時に教えて頂きました。まさしく“企業は人なり”を実践している会社、徳武産業株式会社は人に感謝する表現を形にし、解りやすく伝える為の努力をし続けているのだと思いました。

大澤 秀明氏（㈱オオサワ商会・富士宮支部）

支部だより

沼津例会

皆で経営革新計画にチャレンジ!!

6月15日(水) プラサヴェルデ 参加51名



佐野 哲氏

「チャレンジ! 経営革新計画 ～聞けばおもしろい会員の事例～」と題して、公益財団法人静岡産業振興財団の佐野哲氏を講師に招き、2部構成で行いました。1部では佐野氏から静岡県経営革新計画について経営革新制度の現状、概要、策定、承認のポイント、申請書の記載方法、

承認後の支援策について具体的に説明を受けました。2部では既に承認を受けている会員の事例として、河合浩史氏(板橋工機(株))の「障害者・高齢者の作業補助器具開発製造の展開」、勝又あすか氏(株きずな)の「高齢者が運営する夜でもやってる学童保育」、津賀由布子氏(有)サンディオス)の「地域と企業をつなぐローカルマーケティングコミュニティの運営による販促支援とモバイル広告の提案」という報告から、現状の活用状況や今後の展開を具体的に知ることが出来ました。

バズ・セッションでは、経営革新計画承認後の支援策や県制度融資、各種補助金の申請などの質問や、今後承認を目指していきたいという意見が多く聞かれ、承認申請へのチャレンジのきっかけとなる例会となりました。

桑崎 雅人氏 (有)島村歯車製作所・沼津支部)

志太例会

未来の活動のヒントは歴史の中にあった!

6月16日(木) 藤枝パークインホテル 参加29名

今後の志太支部の活動指針を作り、自社にもっと活かせる例会を創るために、と位置付けられた今月の例会のテーマは「同友会の歴史を知る!」でした。冒頭、司会の寺島雅之氏(株藤枝パークインホテル)から発表された同友会の生い立ちは、とても興味深いものでした。いろいろな人の想いや理念、または組織が絡んで今の同友会があるんだと知り、まずは歴史を知ることの大切さを感じました。続いての歴代支部長様のお話はそれぞれ大変意義深く、具体的な事例を挙げての話でとても分かりやすかったです。例えば講師を招いての例会には会員が多数参加して盛り上がったが、はたして本当にこの形でのいいのか?と自問自答し苦労した話や、良い例会って?という話になったとき、「そこで何を考え、何を学んで、どう実践するか?を自ら学んで考える場」「人に何かしてもらおうのではない、自ら何かしに行く場」「地域の将来を見据えて何をやるか?」等々が、今後の例会の形づくりにとても役立つものと思いました。昨年30周年を迎えた志太支部が40年、50年と歴史を創っていく過程において、その組織の一員として自らの役目を進んで考え、実践していかなくては、と感じました。

高橋 直巳氏 (株Sun&Sun総合保険事務所・志太支部)

静岡例会

支部長が語る「同友会活用方法」

6月14日(火) ペガサート 参加62名



山田 勝幸氏

静岡支部長の山田勝幸氏(有)マルミ海産物)が「今年はこちらで行く!」と題し卓話。海産物問屋の4代目である山田氏は、今までの経験や同友会で学んだ事と人脈を生かして問屋、削製製造販売を含め業務拡大に邁進中です。同友会へは「何も行動しなければ現在も未来も変わらない」の思いから入会し、皆の真剣さ、自分の経営に対する甘さと認識不足に衝撃を受けました。同時に第5期創る会に入会、先輩や同期の仲間からのアドバイスで、

今まで何もしてこなかった事、逃げていた自分がある事を思い知らされました。そしてリスクを恐れて手を付けなかった事にチャレンジを決意。この仕事が今や社内です。大きな柱に育っている、との事です。「自分から物事を進めなければ、何も変わらないどころか事態はマイナス方向に向かってしまう。共に同友会で学ぼう!自分に何が出来るのかを問おう!また、積極的に同友会に参加し、進んで役を受けて欲しい!きっと将来自分を振り返った時、経営者としての成長を感じるはず」と呼び掛けました。

バズ・セッションでは、同友会で学んできた事やこれから学びたい事をテーマに活発な討論がなされました。入会したばかりの会員が積極的に発表者に名乗りを上げ、非常に好評でした。

望月 彰三氏 (株望月US・静岡支部)

御殿場例会

強い想いが人を動かし、仲間を集め条例をつくる

6月7日(火) 森之腰中央公民館 参加69名



宇佐美氏(左)、簀氏

「中小企業振興基本条例に故郷への想いをこめて、未来の子供たちに手渡す地域社会をつくろう」と題し、富士宮支部より報告者として宇佐美健介氏(有)エージェンとうさみ)、座長として簀威頼氏(有)アサギリ)を招き、富士宮市の条例制定に至る

までのモデルケースを紹介してもらいました。

なぜ、条例が必要なのか、また、条例であるための意義、生きた条例にするための取組を具体的な事例と共に紹介してもらった後、外部のオブザーバー、行政関係者や各団体(市議、市役所、商工会、青年会議所)を交え地域での取組を共有するためにバズセッションで意見交換を行いました。

この例会を通じ、同友会の視点、外部の視点と共通理解しながら作り上げていく事が重要であり、また、地域の活性化に向けた戦略が成果を生み出す基盤となりえると感じました。まずは未来のために、地域のために連携を計り、できる事から準備を始めてみるのも良いのかと思いました。

片野 貴一郎氏 (株モスク・クリエイション・御殿場支部)

中遠例会

不動産で生き抜く経営者の責任 ～自分たちの仕事の性質とは～

6月16日(木) ワークピア磐田 参加18名



落合 隆信氏

(株)オチアイは、社員5名、外注を使って管理業務を委託する、半径400m圏内の店舗事業用に特化した不動産会社です。今回の報告者である落合隆信氏(株)オチアイ・静岡支部)は、設立後すぐに社章をつくり、そのデザインに籠めた思いを不変的な

拠り所、そして仕事の方針の基本としました。宣伝広告にはフェイスブックや自社ドメインのHPを利用し、イメージ戦略と信頼度向上につなげています。さらに看板・名刺・クリアファイルなどデザインのCI統一化を徹底。趣味と業務の両立により古地図をデータ化し顧客に過去の履歴として開示したところ、顧客の喜びと信頼を得ました。落合氏は再開発計画などの時代の先端に接し、顧客への情報提供やコンサルティング、メンタルケアに力を入れ、常に物件調査を欠かしません。

バズセッションでは、ITとアナログの使い分けが上手い、大手がやらない物件に特化している等の感想がありました。“待ち”のイメージがある不動産業がどうやって顧客をつかまえるのかという質問に対しては、自社ブランドの規格品を創るしかない、とのことでした。最後に落合氏から「基本的にヒト・モノ・カネがないとはじまらない。とにかくコツコツ貯めて信頼をつかむ。大手がやらないところをとにかく見つける」など、経営のヒントを紹介してもらいました。

大橋 徳久氏 (有)大橋商事・中遠支部)

浜松例会

あなたにとって「経営」とは何ですか？

6月15日(水) (株)エーグッド会議室 参加19名

今回の例会は「あなたの会社は何屋さん?」「あなたにとって経営とは?」の2本立てのオールバズセッションで行いました。福岡同友会から5名の参加もあり、大いに盛り上がりました。

「あなたの会社は何屋さん?」と聞かれたら、どう答えますか? 製造業、サービス業等の業種を答えるのではなく、本質的にしている事、本当の強みを自分が知っているかが答える鍵となります。参加者からは「売上UP屋さん」「安心提供屋さん」「困り事相談屋さん」等個性的な発言が多数聞けました。次に「あなたにとって経営とは?」では、皆がさらに熱い想いを語りました。もちろん自己の幸せ実現にとって必要な物ではありますが、10年で約95%の企業が倒産する中で生き残るには、人々の賛同が必要不可欠です。それには志の高い理念と行動により認めてもらう存在にならなければなりません。企業の継続は社長の功績ではなく人々のおかげなのです。収益とは結果として生まれるものです。そのような企業であれば存在そのものが地域貢献になっているでしょう。

この会を通じて、自分をよく知り、高い志を持つ事の大切さを学びました。さらに困難な道のりは同友会の仲間とともに乗り越えていく事ができると思えました。福岡同友会の方からは「これほどの熱い会は久しぶりだった」と言っていただきました。今後もより良い例会を重ねていきたいと思いました。

杉山 尚也氏 (株)ハーモニー・浜松支部)

遠藤 正人氏 (株)富士トレーディング 委員会・部会通信

第3回

今年度政策委員長の大役を仰せつかりました、遠藤正人(株)富士トレーディング・富士支部)です。政策委員会では昨年度、静岡県に対し中小企業振興基本条例草案を提出し、今年度は行政とベクトルを合わせ、早期に制定まで持ち込みたいと考えています。

また、地域産業政策と条例について更に知見を深め、静岡県の政策に対する要望や提言をまとめ上げ、議会に提出することを目標に掲げています。

ただ残念なことに、条例に対する考え方が、同友会会員の中で大きな温度差があると感じられます。政策委員会のメンバーは各支部でも中心となり、各市区町村の条例制定に向けて尽力しています。富士支部では、富士市が9

政策委員会

年前に制定した条例に対し、改正草案を作成して提出しました。富士宮市、磐田市、三島市は昨年度制定に至りました。沼津支部、榛原支部、志太支部でも制定に向けての気運が高まっています。静岡支部も第一歩を踏み出しました。

会員の皆さん、条例制定の意義をどうかご理解ください。その意義は、同友会の理念そのものなのです。条例を手段として、私たち中小企業家が持続的発展することで、地域経済の発展、地域の活性化、県民市民の安心安全な暮らしに繋がります。政策委員会がリードしますので、皆さんも思いを一つにして皆さんの住む市町村、私たちの住む静岡県を豊かな地域にしていきたいと思います!

遠藤 正人氏 (株)富士トレーディング・政策委員長)

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで! TEL: 054-253-6130

お客様の安心・安全を第一に考える地域密着企業

(有)カーライフ静岡

代表取締役 大池 盛一郎氏 (志太支部)

事業内容：自動車整備業（新車・中古車販売、中古車買取、車検、点検、一般修理、自動車保険）

創 立：1982年10月

社 員 数：正規5名

入 会：2015年7月

所 在 地：焼津市石津536-1

T E L：054-623-7888

中古車販売・整備を主軸に地域密着企業に

焼津市にある(有)カーライフ静岡は、創立から34年続く、自動車の販売整備を行う企業です。

地域密着企業として、来店いただくお客様に対して、信頼を第一に考えて営業しています。一般の人にはわかりにくい部分である、整備に対して強いこだわりを持つことで、安心して車に乗っていただき、お客様への信頼を得ていることが自社の強みであるとのこと。主なお客様の層としては、地域で暮らす高齢の車ユーザーです。高齢の方が好む色をそろえ展示し、丁寧な接客と安心の整備で信頼を得て、お客様がリピーターとなり、新しいお客様もご紹介いただけるようになったと語ります。

突然の入社と事業承継

先代の父が一人で始めた整備会社でしたが、平成5

年に現在の場所に移転しました。

それを機に氏は入社をしましたが、当時は大学を出たばかりで、自分の父の経営する会社に入社することは考えたことがなく、悩んだ末、23歳の時の入社でした。



大池 盛一郎氏 (中央)

先代は平成11年に急逝され、29歳の若さで事業承継する形で代表取締役に就任しました。

大量大型車販売から軽・コンパクト車の時代へ

事業を受け継いだ当時から、現在に至るまで、世間の自動車に対する考え方が大きく変わり、軽・コンパクト車が主流の時代になり、今後さらなる技術革新で、自動運転車の導入など、時代の変化は激しくなるでしょう。安心・安全な車販と整備でお客様と信頼関係を築きながら、地域の高齢者に、一年でも長く車に乗ってもらう工夫を進めていき、今後のビジョンを見据え、仕事に邁進していきたいと語りました。

取材・記事：山田 幹也氏 (練立花ガーデン・志太支部)
池原 智彦氏 (有)池原商会・志太支部

個性を發揮しながらも同じベクトルで進むオーケストラのような会社

丸山工業(株)

代表取締役 九川 治喜氏 (富士宮支部)

事業内容：金属プレス加工、金属パイプ加工 (自動車部品、機械部品等)

設 立：1960年4月

社 員 数：正規18名 パート4名

入 会：2009年2月

所 在 地：富士宮市山宮2201-10

U R L：http://www.maruyama-kogyo.co.jp/

2003年、38歳で社長に就任

自動車部品の金属プレス加工、パイプ加工を主に手掛けている、丸山工業(株)。九川治喜氏が後継者として入社したのは1993年、28歳の時でした。パイプ加工を中心に生産現場、金型設計、品質管理の業務に携わり、忙しくも順調に日々を過ごします。そして入社から10年が過ぎた2003年、「社長は若いうちから」という先代のモットーもあり、38歳で社長に就任します。

度重なる外部環境の激変のなか、同友会に入会

就任後間もなく原料価格の高騰に見舞われ、九川氏は値上げ要請や材料確保に奔走します。さらに43歳の時にはリーマンショックが発生。困難の連続の中で、経営者としての力不足を痛感したといいます。そんな

中、出会ったのが同友会でした。同様の立場や悩みを持つ仲間と出会い、何のために経営するかを問う同友会の教えは、九川氏にとってとても新鮮で力強いものでした。理念作りをはじめ会活動に積極的に参加し、学びを深めていきました。



九川 治喜氏 (右から3番目)

経営理念、ハーモニーで個性を同じベクトルに導く

音楽家としての顔も持つ九川氏は「音符から音楽が生まれるように図面からモノを作る」という社是を作りました。オーケストラ指揮者が団員のパートや個性を理解しハーモニーを奏でるように、会社も社員の個性を發揮しながらも調和する同じベクトルで進みたいという想いを込めています。ちなみに昨年、ドラマ「下町ロケット」で同社制作のパイプが使われたこともあり、社員の士気を高める追い風になりました。今後は蓄えた技術力を發揮し、加工業だけではないハーモニーが聴こえてくるような自社製品の開発にも取り組んでいきたいと語ってくれました。

取材・記事：田邊 元裕氏 (南カボスメディアワークス・富士宮支部)
河村 徳之氏 (かわむら呉服店・富士宮支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1030名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
飯塚 哲 矢	飯塚石油 石油卸売業 (石油製品販売 (燃料油、潤滑油、関連商品))	静岡	長岡 善 章
片瀬 健	鉄興運輸(株) 運輸業 (一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、倉庫保管業、重量物各種機械 移動・据付業)	静岡	望月 省 吾
田中 裕 美	Rita社会保険労務士事務所 社会保険労務士業(人事労務管理の相談、就業規則等の作成・見直し・変更、労働・社会保険の手続・給与計算・記帳・求人代行等)	静岡	原口 富 夫
松下 司	エルアンドビー総合保険(株) 保険代理店業 (生命保険、損害保険)	榛原	小塚 辰 巳
大場 和 洋	(株)テクノパック 製造業 (ティーバッグの製造・販売)	中遠	鈴木 弘 之
倉 篤 史	(株)ベーシック 金属リサイクル業、新電力代理店業 (電子機器製造業のリサイクル提案、新電力を中心とした省エネルギー提案によるコスト削減)	中遠	大橋 徳 久

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第28回

大橋知文さん(株)静岡テレビセンター)からご指名いただいた、静岡支部の西子清英です。大橋さんが委員長を務める「静岡支部異業種交流委員会」で講義させて頂いたご縁で公私に渡り、いつもお世話になっています。

「眠猫堂」←なんて読むの?って言われます。猫歴30年、無類の猫好き。ネコの丸くなって寝ている姿に癒され過ぎちゃってマーク先行で作り、当て字ですが「ねんねこどう」になりました。モノの売れる仕組みづくりを考えて、優秀に集客してくれる営業マン代わりになるホームページの制作とイラスト作成をメインに、静岡県内中心のお客さまのお手伝いをしています。同友会には、(株)青山建材工業の青山達弘さんの紹介で入会し、様々な会で勉強しています。どの会でも仲間の会社のことを自社のように親身になってアドバイスする暖かさに、いつも感謝しています。



西子氏自画像

昨年眠猫堂と並行して静岡市内の専門学校でマーケティングとデザインを教える非常勤講師をしています。そのきっかけは、青山さんの一言。ホームページを作ることデザインすることに拘っていた私に「西子さんができるサービス=眠猫堂でいいんじゃないかな」とアドバイスをくれました。この他にも同友会のネットワークには様々な形で助けられており、感謝しています。

さて、今回は同友会に同期で入会し、いつも仲良くしてもらっている宮田博文さん(有)ミヤタ印刷・静岡支部)です。宮田さん、どうぞよろしくお願いたします。

西子 清英氏 (デザイン工房 眠猫堂・静岡支部)

第19回 女性経営者全国交流会 IN 旭川 感想

6月16日、17日の二日間に亘って旭川市で開催された、女性経営者全国交流会。全国から671名が参加しました。静岡から参加した梶川久美子氏(サツマ電機(株)・沼津支部)は「事業承継をテーマとした分科会では、女性ならではの一步引く姿勢が円滑な承継に繋がるのでは、と感じた。料理や趣向など女性ならではの細やかな気配り、全国大会ならではの学びと刺激に富んだ、綺麗で有意義な会だった」とのこと。2017年の開催地は富山県です。皆さん、ぜひご参加ください!

会費引き落とし(口座振替) 告知方法の変更に関するお知らせ

これまで会費引き落とし(口座振替)については、会員の皆様へ葉書をお送りし通知していましたが、広報誌上に「口座振替日のお知らせ」を掲載し、そちらをもって告知と致します。また領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。今後は毎年度3月10日号・9月10日号にて口座振替日のお知らせをします。その際にご確認の程、どうぞ宜しくお願い致します。
※並行して口座振替への切り替えを進めています。ご協力をお願い致します。

同友会 三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。